



うすい ゆきこ
臼井 由紀子
(つなぐ)

保健福祉
教 育

【放課後児童クラブ】安心して共働きを！

問 放課後児童クラブは近年人材の確保や定着が課題となっているが当市の状況は。

部長 市内のクラブにおいても課題となっている。広報ふじのみや、市のホームページなどに募集記事を掲載したりクラブと連携、協力しながら職員の確保や定着に取り組んでいきたい。

問 支援員にはこどもの健やかな成長をサポートする為の専門性が求められているが、そのための研修は行っているのか。

部長 去年は防犯、それ以前は安全管理、救急救命講習等。今年度はこれから計画する。クラブと連携、相談し内容、回数について検討していきたい。



意見 教育・福祉・地域が連携して放課後の居

場所づくりをどのように推進するのか考えていきたい。

【生涯学習】誰もが学び続けられる環境を！

問 公民館講座をオンライン講座やハイブリッド型講座^{*8}として開催する計画はあるか。

部長 デジタル技術を活用した新たな学びを創出することで市民が多様な交流やつながりを広げていくことが期待できる。今後ダンスや料理講座等、オンラインでの受講可能としたハイブリッド型の講座の実施を目指し方法を研究する。

問 デジタル格差への対応について。

部長 DX^{*9} 推進の一つにデジタルディバイド^{*10}対策を掲げ、スマートフォン教室やデジタルリテラシー^{*6}に関する出前講座や支援を行なっている。しかし、残念ながら格差解消までに至っていない。今後も継続的に教室や講座を続け、国のガイドラインを意識した住民目線のサービス推進をしていく。



いわむら えみ
岩村 恵美
(つなぐ)

産業振興
教 育

食育推進計画推進とフードバレー構想における地元特産品や有機農作物を活用した新たなブランド開発について

問 「地食健身」に基づき、食に関する教育の現状について伺う。

部長 豊かな食資源の活用と将来の富士宮市を担うこどもたちへの食文化の継承は大事な柱であり、小中学校協力の下、「学校給食牛乳講座」や、中学生に対しては、「豚肉講座」、「ニジマス教室」を開催し、座学と富士宮食材を使った調理実習を組み合わせ、食の大切さや地域の恵みを実感できる機会を提供している。

問 試験的に取り組んでいる保育園の有機農産物活用の進捗状況は。

部長 来年の1月及び2月の2回、市内の公立保育園のうち2園でお米と野菜を提供していく



計画となっている。

問 地元特産品や有機農作物を活用した新たなブランド開発について。

部長 現在「特産品開発・付加価値向上等推進事業」により、地場の農産物を活用した特産品開発などに対し、経費の2分の1以内、上限15万円を補助する事業を実施している。これまでにジビエ肉の真空包装機の導入などがある。

保護者の同意のない高額課金トラブルと金融リテラシー^{*6}の教育の推進について

問 関係機関との今後の具体的な連携強化策に関する学校の取組は。

部長 井之頭中学校では、静岡銀行株式会社により、投資の疑似体験を通して現実の社会問題の解決策を考える実践的な学習を行い、金融に関する正しい知識と適切な判断力を養った。

意見 食と経済は、生きていく上で必要不可欠。私たちが育ってきた環境とは、現在はあまりにも異なっており私たち自身、行政も、市長も知識をアップデートしていかなければならない。

